

支 部 長 換 拶

先に行われた北海道支部の第23期役員選挙で支部理事に選出され、本年5月27日に開催された第1回支部理事会で北海道支部の支部長に選ばれました。浅学非才の身には大役ではありますが、札幌管区気象台長という立場に対するご推薦でもあり、お引き受けすることといたしました。精一杯努めたいと思いますので、どうかよろしくお願いします。

また、本年5月23日にさいたま市で開かれた日本気象学会の総会で、北海道大学低温科学研究所の藤吉康志教授ともども全国理事に選出されました。北海道支部と全国組織との橋渡し役として働いてまいります。

日常生活から農林水産業などの第一次産業、商業活動やレジャー関連産業、はては地球環境の変化に至るまで、国民生活が大気現象から受ける影響は科学技術が進歩した今日においても大きなものがあり、むしろ年とともに増大しているという感があります。したがって、国民の気象に対する関心、気象学の進歩やその成果の還元に対する期待も年々大きくなってきています。これまで日本気象学会は、「気象学の研究を盛んにし、その進歩をはかり、国内および国外の関係学会と協力して学術文化の発達に寄与すること」という学会の目的を達成するために様々な事業を進めてきましたが、研究成果の普及活動も重視して活動を強めていく必要があると感じています。

ここ北海道では、従来から、北海道大学を始めとする研究・教育機関、札幌管区気象台などの気象官署、日本気象協会に代表される民間気象事業者の三者が、それぞれの立場からバランスよく学会運営に携わってきました。最近では学会活動に時間を割くことに対する難しさも増加してきましたが、先に述べた気象学会の活動がもつ社会的な重要性に鑑みて、今後もこの伝統を保持していきたいと思っております。

支部理事会では、支部研究発表会、今年で20回という記念すべき回を数えた夏季大学講座、一般市民を対象にした気象講演会、会員向けの特別気象講演会、支部機関紙『細氷』の発行などの支部活動を着実に実行してきました。これに加えて今年度は、気象学会の秋季大会が5年ぶりに札幌で開催されます。支部の実行委員会で鋭意その準備にあたっているとところです。また、来年6月から7月にかけて、IUGG（国際測地学・地球物理学連合）の第23回総会が札幌で開かれることになっており、世界中から多くの研究者が北海道を訪れます。支部会員が国際的な交流を深める場になればと期待しています。

これまでの支部活動は、会員のボランティア活動と学会本部からの支部還元金や『細氷』の広告収入等で運営してきましたが、長引く景気の低迷を受けて、広告収入等が従来どおりには見込めない状況となっています。来年度以降の支部活動のあり方については、大幅な見直しが必要と考えられます。理事会として会員のみなさまのご意見を考慮しつつ、この問題に対処していきたいと存じますので、ご協力をお願いします。

(社) 日本気象学会北海道支部
支部長 大西晴夫
(札幌管区気象台長)